

# 総括

## ■ 種別

高度・専門機能「救急医療・災害時の医療」を適用して審査を実施した。

## ■ 認定の種別

書面審査および6月29日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「救急医療・災害時の医療」                      認定

## ■ 改善要望事項

高度・専門機能「救急医療・災害時の医療」  
該当する項目はありません。

### 1. 病院の特色

貴院は1979年に開設され、1984年に救急告示病院の指定を受け、救急医療の提供を基盤として増床と機能拡充を続け、2012年に救命救急センターの指定を受けている。2015年には許可病床473床となり現地に新築移転をし、地域災害拠点病院としての機能も有している。救命救急センターをはじめ、地域周産期母子医療センター、地域医療支援病院として京都府山城北医療圏に位置し、山城南医療圏も包含した所管人口55万人に対する救急医療を担っている。基本方針や行動指針に沿って、多くの救急搬送と救急外来受診患者の受け入れ実績があり、循環器ならびに脳卒中診療では特に専門性の高い診療を維持し提供している。災害医療についても貴院の基盤としている救急医療をもとに、病院全体を挙げた姿勢を示している。

今後も組織一丸となって改善活動を継続され、地域の基幹病院として地域住民や多くの医療機関からの多大なる信頼と期待に応えながら、貴院が益々発展されることを祈念する。

### 2. 地域の救急医療を支える効果的な仕組み

基本方針や救急部門の理念を明確に規定し、5項目の行動指針を挙げて院内体制を整えている。山城北医療圏をはじめ、周辺医療圏に及ぶ人口55万人を所管する救命救急センターとして、地域の救急医療事情を理解し、基幹病院として医師会・医療機関・行政・消防組織等との相互理解を深めた連携を構築し、さらなる充実に向けて努力している。また、地域周産期母子医療センターや循環器・脳卒中診療といった高い専門性を要する緊急疾患への対応能力は高く、ドクターカーを運用して専門医療を提供し続けていることは評価できる。さらに、コロナ禍における京都府

内の重症新型コロナウイルス感染症患者の受け入れも十分に対応した実績もあり、評価される。医療連携や消防・救急搬送等の基本統計は、救命救急センターの稼働状況等含めて把握されており、97.5%の高い応需率を維持している。救急患者の受け入れのため、退院促進や転院調整により確実に空床を確保している。地域医療機関と消防との研修会（懇話会）や症例検討会を定期的を開催するとともに小学校でのBLS講習会や地域住民との交流・救急啓発活動を積極的に行っている。救急救命士教育（実習）も多岐にわたり実践している。

救急医療を提供するための組織体制を整備しており、必要な各委員会を定期的で開催して業務改善等に努めている。指導医や専門医を含む医師をはじめ、看護師、救急救命士、薬剤師、臨床工学技士等、確実に救急医療を提供するための人員が確保されている。なお、医師や看護師の業務量や勤務管理について、負担軽減に向けた一層の検討が期待される。診療記録の的確かつ適時的な作成に向けて、記録の入力支援体制のさらなる充実を期待したい。救急・集中治療に必要な施設構造を有し、高度医療機器の整備やその保守管理に必要な人員を配置し、病床管理のもとで救急患者を絶えず受け入れる体制がある。

### 3. 救急医療への適切な対応

医療圏における救急部門の果たすべき役割が明確になっており、救急隊の搬送依頼の応需率は97.5%と高い水準を維持するとともに、重症度に鑑みて求められる医療が提供できるように努め、並行して実践していることは評価できる。救急患者の緊急度判定を迅速に実施し、専門診療科との連携体制も構築されている。適切な緊急処置に必要な資器材等や検体検査・画像診断ともに迅速に対応する設備は整備されており、年間700件を超える緊急手術を実施している。早期からMSWが介入し、リハビリテーションも導入し、急性期治療後の転院調整も含め社会復帰に向けた支援体制を実現していることも評価できる。

診療記録の作成は、数多くの重症患者を受け入れている側面から医師・看護師・救急救命士で連携して適時的かつ正確な記録に努めている姿勢は評価するが、より確実かつ効率的な作成に向けた検討を期待したい。患者のプライバシーに配慮し、患者・家族への説明時には個室を使用するなど工夫している。また、診療後に帰宅する際は患者に合わせた療養パンフレットを作成し、療養指導を確実に行っている。

### 4. 救急部門の質改善に向けた取り組み

救急医療にかかる教育はACLS、BLS等を定期的で開催し、医師は救急科専攻プログラム基幹施設として拡充しており、積極的に論文発表等の学術活動を行っている。認定看護師資格の取得における教育課程在学中は研修扱いとなり、経済的支援を含め、病院として資格取得を支援する仕組みを整備している。各診療科の医師を含む多職種が参加するカンファレンスや症例検討会を適宜開催し、議論・検討された内容を共有して診療のフローやプロトコルの作成および改訂を行い、診療機能の向上に努めている。疾病登録活動や複数の他施設共同研究等に参画するとともに

に、診療データを解析して質改善に向けた活動に取り組んでいる。

#### 5. 災害時の適切な対応のための体制

山城北医療圏の地域災害拠点病院として、災害発生時の医療機能の維持や被災地域への医療班派遣にかかる災害時派遣医療チームが組織されている。派遣活動の経験があり、災害医療に対する機能・役割は院内や地域の関係機関と共有して積極的に災害医療に取り組んでいる。災害対策マニュアルが整備され、多数傷病者の受け入れ態勢は平時の救急医療の計画の中に盛り込まれており、確実に実働する体制が構築されている。策定された事業継続計画（BCP）に基づき、訓練を計画している。また、実災害における傷病者の受け入れは、地域の医療機関や行政機関と連携して遂行するための体制が確保されている。今後は、病院が支援を受けることを想定したマニュアルの整備やBCPの検証および改訂に向けた取り組みが期待される。

地域災害拠点病院としてCBRNE等の特殊災害に対応するための基本方針と体制の整備を進めており、地域・自治体等との連携や地域ならびに院内の対応など、多岐にわたるシステム構築に取り組んでいる。

## 1 地域の救急医療を支える効果的な仕組み

### 評価判定結果

1.1	救急部門の地域における役割、基本方針と連携体制	
1.1.1	地域における役割を踏まえた救急部門の運営理念・運営方針を明確にしている	Ⅱ
1.1.2	地域における役割と連携体制が適切に定められている	Ⅱ
1.1.3	地域における役割と連携体制の改善に努めている	Ⅱ
1.1.4	地域および他施設の医療従事者・救急隊員などの教育に関与している	Ⅱ
1.2	救急部門の体制の確立	
1.2.1	救急医療を提供するための組織体制が確立している	Ⅱ
1.2.2	救急部門に必要な人員が確保されている	Ⅲ
1.2.3	救急患者の記録入力支援体制が確立している	Ⅲ
1.2.4	救急医療に必要な施設・設備が整備されている	Ⅱ
1.2.5	救急患者を受け入れる病床が確保されている	Ⅱ

## 2 救急患者への適切な対応

### 評価判定結果

2.1	チーム医療による診療・ケアの実践	
2.1.1	救急患者を適切に受け入れている	Ⅱ
2.1.2	救急患者受け入れ後の対応が適切に行われている	Ⅱ
2.1.3	緊急時の検査・診断に迅速に対応している	Ⅱ
2.1.4	救急患者の手術を適切に実施している	Ⅲ
2.1.5	救急患者の受け入れや対応における危機管理が適切に行われている	Ⅱ
2.1.6	救急部門において早期のリハビリテーションを適切に行っている	I
2.1.7	救急医療の記録を適切に記載している	Ⅲ
2.1.8	患者・家族への配慮や指導がなされている	Ⅱ

### 3 救急部門の質改善に向けた取り組み

## 評価判定結果

#### 3.1 質改善に向けた取り組み

3.1.1	救急医療に関する教育・研修を行っている	Ⅱ
-------	---------------------	---

3.1.2	診療の質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
-------	----------------------	---

3.1.3	救急医療の質改善に必要なデータを活用している	Ⅱ
-------	------------------------	---

## 4 災害時の適切な対応のための体制

### 評価判定結果

#### 4.1 災害時の医療支援と院内受け入れ対応のための体制

4.1.1	地域における役割を踏まえた災害時の対応に関する運営理念・運営方針を明確にしている	Ⅱ
-------	--	---

4.1.2	多数傷病者発生時の院外派遣体制が整備されている	Ⅱ
-------	-------------------------	---

4.1.3	多数傷病者発生時の院内受け入れ体制が整備されている	Ⅲ
-------	---------------------------	---

#### 4.2 特殊災害への対応

4.2.1	病院の指定された役割分担に基づく特殊災害への対応のための体制が整備されている	Ⅲ
-------	--	---